

川崎市におけるヤナギ科 Salicaceae を寄主植物とするシャチホコガ科 Notodontidae の記録

横田光邦*・三田村瞬*・平野敦士*

A record of Notodontidae eating Salicaceae in Kawasaki City.

Mitsukuni Yokota*, Shun Mitamura* and Atsushi Hirano*

はじめに

川崎市内ではヤナギ科 Salicaceae 植物は河川敷や公園・道路の植栽に見られるが、一般に少ないため、それらを寄主植物とする蛾の種類も限定されている。過去のシャチホコガ科 Notodontidae の記録では、ヒナシャチホコ *Micromelalopha troglodyta* (Graeser, 1890)、ツマアカシャチホコ *Clostera anachoreta* (Denis & Schiffermüller, 1775)、セグロシャチホコ *Clostera anastomosis* (Linnaeus, 1758)、クワゴモドキシャチホコ *Gonoclostera timoniorum* (Bremer, 1861) の4種が記録されているに過ぎない (中島・阪本, 2018)。

過去の記録は年代も古いことから、最近 (2022 年から 2023 年) のヤナギ科を寄主植物とするシャチホコガ科の記録について報告する。

採集記録

(1) ヒナシャチホコ *Micromelalopha troglodyta* (Graeser, 1890)

[麻生区]1♂, 麻生区白山, 27-IV-2023, 平野敦士採集

マンション 13 階の開放廊下天井に止まっているところを採集した (図 1)。付近にはヤマナラシ属 *Populus* の一種が植栽されていることから、これを寄主植物としているものと考えられる。

幼虫の寄主植物はヤマナラシ *P. tremula* var. *sieboldii* やセイヨウハコヤナギ *P. nigra* var. *italica* などのヤマナラシ属なので、これら植物の分布に依存するが、小型であるため見落とされている可能性もある。

川崎市では、生田緑地より 1♂の記録 (中臣ほか, 2007) があるのみで、神奈川県内の他の地域からは発見されていない (中島・阪本, 2018)。



図 1. ヒナシャチホコ成虫

(2) ツマアカシャチホコ *Clostera anachoreta* (Denis & Schiffermüller, 1775)

[宮前区] 1ex. (亜終齢幼虫), 宮前区水沢, 01-X-2023, 横田光邦確認

宮前区菅生緑地西地区にある水沢の森の瓢箪池周辺にて、そこに植栽されているヤナギ科 Salicaceae の一種より本種の巢を発見し、それを開いたところ亜終齢幼虫を確認した。巢は複数見られたが、幼虫はこの 1 個体しか確認できなかった。

川崎市では多摩区生田緑地 (中臣ほか, 2007) および麻生区黒川 (中島・山本, 2004) から記録がある。神奈川県内では山地から平野部まで広く生息しており、幼虫がヤナギ科全般を寄主植物としているためであると考えられる。生田緑地ではイイギリ *Idesia polycarpa* Maxim. から記録されている (中臣ほか, 2007)。



図 2. ツマアカシャチホコ亜終齢幼虫

*特定非営利活動法人 かわさき自然調査団

Kawasaki Organization for Nature Research and Conservation

(3) クワゴモドキシャチホコ *Gonoclostera timoniorum* (Bremer, 1861)

[宮前区] 1ex. (終齢幼虫), 宮前区水沢, 01-X-2023, 三田村瞬採集

宮前区菅生緑地西地区にある水沢の森に植栽されているフリソデヤナギ *Salix ×leucopithecia* Kimura (ネコヤナギ *S. gracilistyla* Miq. とバッコヤナギ *S. caprea* L. の雑種) で 2.5m ほどの高さのところの葉を摂食している終齢幼虫 1 個体を発見した(図 3)。

川崎市では、多摩区中野島の記録(中島・山本, 2004)があるのみで、神奈川県内では相模原市や厚木市より西側の地域に産地が多い(中島・阪本, 2018)。筆者の横田は、横浜市西部でも幼虫を複数記録している(私信)。



図 3. クワゴモドキシャチホコ終齢幼虫

(4) オオモクメシャチホコ *Cerura erminea* (Esper, [1783])

[麻生区] 1♂; 1♀, 麻生区白山, 23-VI-2022, 平野敦士採集; 1♂, 麻生区白山, 31-VII-2023, 平野敦士採集

マンション 11 階から 13 階の開放廊下にある街灯(暖色系の蛍光灯)に誘引されたとみられる個体を採集した(図 4)。付近にはヤマナラシ属 *Populus* の一種が植栽されていることから、これを寄主植物としているものと考えられる。

神奈川県内では本種の記録はなく(中島・

阪本, 2018)、初記録であると思われる。隣接する東京都からは記録が見受けられ(中村・羽鳥, 2015)、セイヨウハコヤナギが植栽されている都市公園でも生息していることから、同様な環境を調査することで神奈川県内でも生息が確認できるものと考えられる。



図 4. オオモクメシャチホコ成虫

おわりに

今回の調査期間では、セグロシャチホコは確認できなかったが、さらなる調査に期待したい。一方、オオモクメシャチホコを初めて確認できたが、まだ成虫のみなので、幼虫やその生態についても今後調査していきたい。

引用文献

- 中島秀雄・阪本優介, 2018. 神奈川県昆虫誌 2018 III, pp. 778-783. 神奈川県昆虫談話会, 小田原.
- 中島秀雄・山本光人, 2004. 神奈川県昆虫誌 2004 III, pp. 1055-1065. 神奈川県昆虫談話会, 小田原.
- 中村 清・羽鳥信義, 2015. 東京都八王子市にて多数のオオモクメシャチホコ発生. グループ多摩虫会誌「多摩虫」, p.118. 東京.
- 中臣謙太郎・蛾類研究グループ, 2007. シャチホコガ科各種の生態観察. 川崎市自然環境調査報告 VI, pp. 233-246. 川崎市教育委員会・特定非営利活動法人かわさき自然調査団.